ヘルスプロモーション研究センターの活動紹介

ー「今こそ地域診断」セミナー報告とともにー

公益社団法人地域医療振興協会 ヘルスプロモーション研究センター　嶋田雅子　吉葉かおり　野藤　悠
中村正和　柳川　洋

新ヘルスプロモーション研究センターの活動

当センターは今年度から新体制で協会施設ならびに自治体と協同して，生活習慣病や介護・認知症の予防活動に先進的に取り組むこと，効果的な取り組みの横展開を図るほか，全国的な普及に向けた政策提言を行うことを目指して活動を開始している[1]．主な活動内容を**図1**に示す．

１つ目はキャラバン隊による予防医療活動で，

図1　ヘルスプロモーション研究センターの4つの主な活動内容

キャラバン隊による予防医療活動 Health Promoting Clinic/Hospital の実現	・医療施設等へのスタッフ派遣による予防医療活動の実施（保健指導，栄養指導，運動指導） ・医療機関における禁煙推進の先進的モデル事業の実施 ・食事，運動，喫煙に重点
自治体と協同したモデル研究 健康なまちづくりと地域振興を目指した産官学連携事業	・自治体の健康課題を明らかにするための地域診断の実施 ・地域診断に基づいた予防医療活動の充実の検討・実施 ・地域振興につながるモデル事業の実施（地産地消による医食同源レシピ・宅配食の開発，地域の伝統文化，農水産物などを活かした健康で個性のあるまちづくり）
指導者養成・情報発信 生活習慣病，介護予防，認知症予防に関する指導者教育・情報発信	・各種研修会の企画・運営（テーマは地域診断，研究事業費の取得等） ・取り組みの好事例やエビデンスに関する情報発信 ・禁煙支援・治療に関するｅラーニングの普及（J-STOP 事業） ・プライマリケアの場における生活習慣改善支援のための指導者教育
公衆衛生人材バンク 公衆衛生医等のネットワークと人材バンク	・保健医療関係者のネットワーク「公衆衛生ねっと」の運営 ・公衆衛生医等の人材バンクの構築 ・保健事業へのコンサルティング（施策の提言，事業計画・実施・評価における専門的助言）

食事，運動，喫煙に重点をおき実施すること，２つ目は自治体と協同したモデル事業で，自治体の健康課題を明らかにする地域診断を実施し，地域の健康なまちづくりと地域振興を目指した事業を展開すること，３つ目は研修会を企画して指導者を養成するとともに，取り組みの好事例やエビデンスを発信すること，４つ目は公衆衛生医等のネットワークと人材バンクを構築することである．今後，本誌の連載を通じて当センターのこれらの活動を紹介しながら，医療施設や地域での予防医療活動の報告や関連情報の発信をしていきたいと考えている．

「今こそ地域診断」セミナー

主な活動の一つとして自治体と協同したモデル事業があり，協会施設の診療圏となる地域で暮らす全住民の健康も守ることを目指し，当センターでも自治体の健康課題を明らかにするための地域診断を始めている．

地域診断を行うことにより，保健活動を展開する根拠が明確になり，効果的な事業を展開することができる．これまでも当センターでは地域診断に関するセミナーを開催してきたが，毎回多くの参加があり，効果的な事業展開を図る上で重要かつ必須の事項となっていることがうかがえる．

今回は，５月に実施した地域診断セミナーの内容を報告する．

１．開催日時・場所

平成27年５月15日（金），16日（土）の２日間にわたり，地域医療振興協会の本部施設内にて，当センター主催セミナー「今こそ地域診断」を開催した．

２．セミナーの目的

本セミナーは，地域の実態を把握するために，既存の保健統計資料等を駆使して，地域の健康課題を明らかにする手法を学び，さらに，予防を含めた地域医療や保健サービスのあり方を考えることを目的とした．

３．参加者

参加者の募集は，当協会施設，教育機関や行政に対し，ホームページや「公衆衛生ねっと」での告知，雑誌への広告掲載や案内状の郵送等にて行った．当日は24名の参加（うち協会職員６名）があった．参加者は，医療機関や行政，大学機関，企業から，医師，保健師，管理栄養士，理学療法士，歯科衛生士，教員，研究者など多職種の方が集まった．

４．プログラムの流れ

セミナーは２日間のプログラムで実施した（**表１**）．

１日目は，当センターの柳川 洋アドバイザー

表1　セミナープログラム

１日目 ： ５月 15 日（金）　講師：柳川 洋（当センター アドバイザー）		
10:30～10:45	オリエンテーション	
10:45～11:35	講義１	地域診断のための実態把握 記述疫学の基礎と応用および図表化の方法
11:40～12:30	講義２	既存統計資料の活用による地域診断
13:30～13:50	演習１	主要統計資料の活用
13:50～15:50	演習２	演習課題のグループワーク
16:00～16:50	演習３	プレゼンテーション
17:30～19:30	交流会	
２日目 ： ５月 16 日（土）　講師：尾島 俊之（浜松医科大学健康社会医学 教授）		
9:50～10:00	オリエンテーション	
10:00～11:00	講義３	データ分析から「見える化」へ　～静岡県の事例から～
11:00～12:00	演習４	グループワーク「地域診断や調査研究の計画」
13:00～13:50	演習４	（つづき）
14:00～15:00	演習５	グループワークの発表
15:00～16:30	演習６	取組み事例に対する質疑，総合質疑

写真１　グループワークの様子

写真2　取組み事例に対する質疑応答の様子

が講師を担当した．講義１「地域診断のための実態把握」では，①記述疫学の基礎を理解する，②統計資料を適切に図表化（プレゼンテーション）することができる，③分析結果を政策責任者（首長，議員，行政責任者），上司，同僚，住民と共有し，具体的な政策作りに役立てることができることを目標とした．講義２「既存統計資料の活用による地域診断」では，①地域診断の意義と必要性を理解する，②保健計画の流れを理解し，必要な情報収集ができる，②ネット上の既存統計資料（人口動態統計，国民健康･栄養調査，国民生活基礎調査，ほか）を利用することができることを目標とし，実際にパソコンを操作し，主要な統計データの検索手順を確認した．

午後からは各班４～５名のグループとなり，あらかじめ準備した８つの課題（悪性新生物，心・脳血管疾患，血圧，喫煙など）のいずれかを選択し，次の①～③の手順でワークを実施した（**写真１**）．①選択した課題に関する既存資料を検索，②選択した課題の分析項目，分析の方針に沿って統計資料を図表化，③その上で分かったことを要約し，対策の方向を考え，パワーポイントによりプレゼンテーションを実施した．プレゼンテーションに対しては，尾島俊之先生，当センターの中村正和センター長もコメンテーターとして加わった．実際に図表化してみることで新たな気づきがあり，地域診断を行うための基礎的な考え方や方法を再確認できたようであった．１日目の研修終了後は，交流会を開催し，業種，職種の枠を超えて意見を交換し合う和やかな時間となった．

２日目は，浜松医科大学健康社会医学の尾島俊之先生に講義をご担当いただいた．講義３「データ分析から“見える化”へ」では，まず，静岡県で実施した地域診断の結果を用いながら，データ分析の手法や，グラフや地図を用い視覚的に結果を見せる手法についてお話しいただいた．さらに，調査・分析について，その流れやポイントなどをご講義いただいた後，演習４「地域診断や調査研究の計画」に移った．グループワークにて，テーマや想定地域を決め，調査の目的，調査方法の設定をした．その後，調査票の試作をした後，予想される調査結果をまとめ，どのように考察するか，どのような対策・施策につなげていくかについて検討をした．各グループがパワーポイントを用いてプレゼンテーションを実施し，コメンテーターの先生方や参加者からご意見やご指摘をいただいた．

また，本セミナーでは，より実践的な内容になるよう，参加者から現場で今取り組んでいる地域診断や調査研究に対する悩みや疑問を発表してもらい，講師らが解決方法などをアドバイスする形で質疑応答を行った（**写真２**）．８名の方が事前に事例や質問を提出してくださり，講師らがその悩みや質問に答える形で進行した．具体的には，「成人健診受診者数・受診率の結果からモデル地区を決め受診率向上に取り組みたいが，統計結果をどのように活用すればいいか」「地区ごとの健康課題を捉え対策につなげるために地域シートを作成したいが，どんなデータを集めたらいいか」など，地域診断を進めるにあたり実際に現場が抱える課題が挙げられた．

５．セミナーの評価

研修終了後にアンケートを実施し，参加者全

員から回答が得られた.「このセミナーに何を期待して参加したか」の問いついては,「市町村における地域診断の意義とその手法について学びたい」など地域診断の手法に関すること以外に,「地域診断，データの活かし方，地区や事業への活用方法を学びたい」「地域診断の通常の臨床研究とは異なる部分について学びたい」などの意見もみられた．今回のセミナーの満足度は,「満足」が18名(75%),「やや満足」が５名(20.8%)であり，多くの参加者から満足したという回答が得られた.

セミナーの感想についての自由記述では,「いろいろな地域差を見ることは面白いと考えた」「グループでいろいろ検討できたことが良かった」「記述疫学の奥深さと地域への活用法が学べて有意義だった」と評価する内容がある一方で「演習の時間が短かった．もう少しじっくり取り組みたかった」「演習の内容やテーマについて事前情報をいただけるとありがたい」「可能なら，先生が各グループに１人ついて指導を受けながらグループワークしたかった」など，セミナー内容改善に向けた意見もあった．また,「できればバージョンアップやシリーズでの開催を希望する」「今回の研修後，職場でデータ分析をしてみて，また研修を受けるともっと理解が深まると思う」「後期研修医向けにやってもらいたい」など，次のセミナー開催に向け期待する声も多く寄せられた.

最後に

本セミナーでは，行政からの参加のみならず，医療機関，研究機関，企業から多職種の参加があり，地域診断への関心の高さがうかがえた．グループワークでは参加者間で活発な意見交換があり，プレゼンテーションや事例検討の質疑では先生方から沢山のご意見やご助言をいただき，有意義なセミナーとなったことが見受けられた.

しかしながら，時間の制約もあり，特にグループワークについては，充分な成果に至らなかった可能性も考えられる．また，研究デザインや統計解析の手法，臨床研究に関する質問や要望も挙がり，地域診断セミナーへの要望が多岐にわたっていることも分かった.

今後は，地域診断セミナーを含め，参加者のニーズに合った質の高いセミナーを企画・開催し，指導者養成につなげていきたいと考えている.

参考文献

1) 中村正和：インタビュー「みんなの健康を，みんなで守る」．月刊地域医学 2015;9(4):2-8.